2013年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー
参加者アンケート

2013年 CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

加　藤　栄　二（連合・総合組織局連帯活動局）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

・実際に現地の人々と交流し、生の声を聞くことができたこと。
・様々な組織の団員のみなさんといっしょに貴重な体験を積めたこと。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

どこの学校でも子供たちはとても礼儀正しく、年下の子には自然にお世話をする共助の精神がみられたこと。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・訪問先ではCSAや連合に対し常に感謝の言葉があり評価されていると感じました。継続は力なりです。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

・6泊7日で移動などスケジュールはタイトに感じましたが、充実した内容であったと思います。個人的には担当業務である「愛のカンパ」を助成する団体の現地事務所を訪問し、現地スタッフの生の声を聞くことができたことが良かった。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい。

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・各方面で感謝されており、意義のある活動だと思います。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

・タイやラオスの現地のニーズに合わせながら、学校建設、衣料支援などバランスよく継続していくことが大切だと思います。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・HPやメールでの宣伝活動ももちろん大事ですが、今回参加して感じたことは自分の目で見ることだと思いました。参加したことがない組織への募集を強化する必要があると思います。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

・現地のニーズや状況に合わせながら、変化を恐れず続けていけると良いと思います。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

・１週間という長い時間を、産別や様々な業種の方と共有できたことが良かったと思っています。

3）チームの運営の仕方はいかがですか。

・毎日役割分担をシフトすることで適度な緊張感と責任感を保てたと思う。全体として協力関係もできコミュニケーションがとりやすくなったと思います。

縄　手　茉　莉（UAゼンセン・グンゼ労働組合）

1．参加して感じたことは何ですか。

1）良かったこと

自分たちが送った救援衣類がとても役に立っていることが実感できたことです。倉庫に山積みになったダンボール箱の中から自分たちが送ったダンボール箱を見つけられた時には、とてもうれしく思いました。今までは“送ったら終わり”でしたが、実際に現地で役立っているのを確認できてよかったです。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

子供たちの笑顔！
小学校で子供たちと一緒になって折り紙をしたり、綱引きをしたときの笑顔が忘れられません！ 少しの時間でしたが、子供たちと交流できたことは最高の思い出になっています。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

どこに行っても熱烈な歓迎を受け、「ありがとう」と数え切れないくらい言われ、CSAの活動が本当に感謝されているのだと感じました。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

とても内容の濃いスケジュールだったと思います。車移動などで少し時間のかかるところもありましたが、時間も遅れることもなく、いろいろと訪問することができたのでとてもよかったと思います。

２．今後のＣＳＡの活動についてご意見を聞かせて下さい。

1）スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

　現地のたくさんの方から感謝され、CSAの活動はとても役立っていると感じました。
　また、単に支援だけではなく、友好の架け橋にもなっていると感じました。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

　老朽化が進んだ小学校の補修には継続して取り組むべきだと思います。また、医療機関への支援も必要だと感じました。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

　できるだけ多くの人にCSAの活動について理解してもらうことが必要だと思います。
　とてもすばらしい活動なのに、このツアーに参加していない人にはあまり理解してもらえていないと思うので、PR方法を考えなければいけないと思う。
　また、同じ組合からだけでなく、参加したことのない組合からツアーに参加してもらうことでもっと理解してもらえると思います。

３．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

　絶対続けるべき！
　参加しないと分からないこともたくさんあり、実際に現地に行って自分の目で見ることは必要なことだと思います。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

　私はまだ組合に関して知識も少なく、先輩方からたくさん勉強させてもらいました。
　メンバーにも恵まれ、初めは不安だった１週間のツアーですが、とても楽しく、貴重なお話もたくさん聞くことができて、自分にとってはとてもいい経験になりました。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

　各訪問先で団長・記録・写真の役割分担があり、それぞれ責任を持って取り組むことができてよかったと思います。

並　木　良　枝（UAゼンセン･コモディイイダ労働組合）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

やはり、中古衣料を送ったその後を確認出来た事です。自分が疑問に思っていた事の答えも解り、ボランティアに参加して頂いた方に、報告出来る事が一番良かったです。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

特に、ラオスは昭和の日本を感じる事ができました(笑)。貧しいけど人々は明るく、子供達もイキイキと生活していました。日本人が忘れてしまった生活がここにはあるなって感じました。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

どこに行っても、皆さんが心から歓迎、感謝をしてくれているのが伝わり、CSAの長年の努力・功績の素晴らしさを感じる事が出来ました。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

CSAの活動を知る為にも、小学校視察、サンティパープCSA高校寮卒寮生との交流、サンティパープ高校CSA寮視察と寮生との交流は欠かせないと思います。

保健省・教育省・日本大使館は、ある意味もう一生行けない場所だと思うので感激でした。そして今回、地雷博物館では、改めて戦争は絶対に良くないと痛感しました。特に無理なスケジュールではなかったと思うし、訪問先は、どこも勉強になりました。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

今まで、CSAがこの様な素晴らしい活動をされているのを知りませんでしたが、ラオスの国民に信頼され、地道に続けてこられた事に頭が下がります。特に、事務局長の渡邉さんには、ラオスの子供達に“日本のお母さん”って慕われていて羨ましいかぎりです。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

今でも充分な活動をされていると思いますが、その活動が各労組などに知られていないのが残念です。もう少しアピールをして良いと思います。

３）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

やはりアピールをして、時には交流の場、発表の場を持って、賛同する人を増やし、輪を広げる事も大切だと思います。

３．今回のチームの感想と今後のあり方について

１）これからも続けた方がいいですか。

是非、続けて欲しいです。参加して良かった事がいっぱいでした。私は、自分の組合の方へ、手をあげてでも派遣の話が来たら行って欲しいと話しました。

２）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

なかなか、他組織との交流の場がないので、新鮮で楽しかったです。参加前は不安でいっぱいでしたが、いろんな話しが出来て良かったです。

３）チームの運営の仕方はいかがですか

良かったです。女性参加者は２人でしたが、娘の様な縄手さんと、みんなに可愛がられていた健君、そして同年代の朝食メンバーと、中心には田倉さんが良くメンバーをまとめていました。毎日の団長役割も励ましあい、褒めあいの毎日でしたね。みなさん楽しい方で、またの再会が楽しみです。最後に事務局の渡邉さん、長い間ご苦労さまでした。ご一緒出来てうれしかったです。そして山岡さん、これからが大変ですが、がんばって下さい。ありがとう、感謝!!

駒　形　文　人（UAゼンセン･すかいらーくグループ労働組合連合会）

１．参加して感じたことは何ですか

１）良かったこと

普段日本の中の小さな世界しか見ていない自分にとって、海外に出て人種や文化、置かれている環境が全く違う人達と交流をすることで、見聞を広め、視野を広げることをできたことが一番大きな収穫でした。

２）訪問先で特に印象を受けたことは何ですか

特にラオスの人達の明るく、人懐っこく、親切な人柄が印象的でした。経済的・物質的には日本と比べて貧しいがそれ以上に精神的に豊かで幸せであるように感じたこと。また、小学校で「好きな科目は？」と聞いたところの答えが「国語」で、その理由が「ラオス人だから」一斉と答えてきたこと。国や文化を愛する気持ちはこういうことだと考えさせられました。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

どこに行っても暖かい歓迎を受け、これまでのCSAの活動や日本に対して、いかに感謝されているかということを強く感じました。これは物資や金銭的な援助だけではなく、草の根的に交流を深め、友好関係を築いてきた歴史があるからだと思います。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

日程は調度良いと思います。CSAと深く関わりのある施設訪問や人々との交流が中心で視察の目的を果たせたのではないでしょうか。また、労働組合として日系企業や地元の職場に伺い、現地の労働問題などの意見交換ができれば尚良かったです。地理的な都合上移動に多くを費やす日があったのは残念でした。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

CSAがこれまで果たしてきた役割とその成果は大きいと思います。現地の方にはそのことが理解され感謝の念を持っていただいているが、日本人にはほとんど知られていないように思います。今後活動を続ける中では、もっと日本国内でのPRを行い、理解と協力を得るとよいと思います。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

ラオスでの乳幼児の死亡率の高さや医療、衛生問題の教育支援、本や教科書の不足などが課題になっていると伺いました。ニーズや支援の対象も変わってきていると思われますのでこれからも幅広く意見を集めるとよいのではないでしょうか。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だとおもいますか。

参加者が自組織の日頃の活動の中で、CSAの目的や取り組みを積極的に伝えること。そしてこの活動に限らずまずは参加するように働きかけることが大切だと思います。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

何を求められて、何ができるのかを常に議論し変化をしながらもその志を持って継続していって欲しい。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか。

日頃あまり交流が少ない他産別や地域の方と共に行動し、話をすることは有意義なことだと思います。今回の視察の内容に限らず日頃の組合活動なども色々な話を聞けて勉強になる時間でした。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

役割りがあることは全員参加になり非常に良かったです。各施設の訪問前の移動の時間などを利用し、事前に知識や情報を共有化してからの訪問になれば更に良かったです。

萩　原　　健（基幹労連・三菱重工労働組合）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

実際に現地へ行き、救援衣類倉庫や学校、さらには各省庁を表敬訪問させて頂きCSAの活動がいかに必要とされ役立っているかが実感できたとともに私たち働く仲間が送った救援衣類が実際どのような形で役立ちが出来ているか確認できて良かったです。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

格差のある社会の中でその格差をバネにし自分の将来を描きその目標に向かってひたすら頑張る子供たち・学生達との出会いが印象的でした。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

各省庁を表敬訪問させて頂いた際、各省庁とも官僚の方々に対応いただき感謝の言葉を頂いたことを受け、CSAの活動に対する非常に高い評価を感じました。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

行くまでは、ハードなスケジュールだと感じていましたが、実際行っていくと効率よく各施設を回る事が出来たと感じました。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

3）で申し上げた通り、CSAの活動は誇らしいものだと思います。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

タイ・ラオスなどにおけるCSAの知名度、活動は素晴らしいものだと感じますが、支援物資等集める日本での活動・PRの拡大を図るべきではと思います。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

単に、担当者が内容を理解するのではなく、活動内容を説明する講義など時間を設け末端の組合員までCSAでの活動の必要性を理解してもらえる時間が必要であり、また機会を設定したいと考えます。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

是非続けた方がいいと思います。一部に特化した単組の限らず数多く幅広い分野の方に参加してもらうべきと思います。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

他単組の取り組みなど、様々な情報交換ができたと思います。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

少人数で団結力があり、各役割を皆で協力し合いツアーを終える事が出来たと思います。

藤　井　　馨（基幹労連・IHI労働組合連合会）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

CSAや自分たちの活動が他国でどのように活用されているのか自分の目で見て確認できたことは良い経験になったと思う。今後の活動に生かしたい。他組合、産別の良き仲間に出会えてことは非常によかった。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

どこを訪問しても歓迎され、感謝されていることを感じた。日常生活の中であれだけの感謝・歓迎を受けることはまずない。学校で学ぶ子供たちの目の輝きは素晴らしかった。全員が同じ輝きを持って勉強している。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

政府の機関をはじめ、いろいろなところが感謝し必要としていると思う。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

１週間は少し短く感じた。移動の時間があるのでどうしても１つの訪問先の滞在時間が少なくなってしまう。今回は時間の関係で１つの小学校が訪問できなかった。タイでもバンコクだけでなく農村地域も訪問してみたかった。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

　ラオス・タイで必要とされ頼りにされている。思っていた以上に深く入り込み活動していて人々に浸透している。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

　新規に新しいことをするよりも、今ある学校施設の改善、不足する教材の調達ができないかを進めていき、子供たちがより勉強のできる環境を整えてあげられないかと思う。救援物資についても、もっと宣伝をして労働組合以外で大きな企業にも参加させることができればいいと思う。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

　今回の参加者、過去の参加者が自分の職場で経験を報告し、教宣活動をして組合員に対し理解を深めなければいけないと思う。自分たちが不必要なものでも必要とする人たちがいるので、捨てずに提供を働き掛ける。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

　続けるべきで、続けることが大事だと思う。各労働組合役員・委員がより多く参加し自分自身の目で活動見て、耳で聞いて実感するべきだと思う。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

　いろんな組織の方と行動を共にすることは非常に良いこと。同じ釜の飯を食うCSAミニ組織に成れたのでは思う。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

　各個人に仕事を割り当てたことは良かった。ただ単に参加するだけでは一旅行者になってしまう。研修と言う名のもと良い運営だったと思う。

末　武　研一郎（基幹労連・JFEスチール千葉労働組合）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

　現地で困っている人への支援にあたり、代表としてその場に参加出来たことがなによりもありがたく、子供達の素直な明るい表情と勤勉な態度に触れることが出来たことが本当に良かった。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

　ラオス教育省訪問時の副大臣、副局長との意見交換のなかで、政府としても教育面での対応が整っておらず、まだまだ学校設立の支援を熱望されていることを感じ、CSAの活動を継続していかねばラオスの子供達に教育を行き渡らせるまでに歳月が掛かること、また、現地でのヒアリングでも教科書は足りていないことが判った。
　救援衣類についてはまだまだ足りない現状ですが、現地での仕分け作業は数名の担当者が１つずつ開梱して行っており、結果的に膨大な衣類の仕分け作業が追いついていない様子だった。困っている方々に少しでも早く届ける為には作業方法の改善が必要と感じた。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

　各訪問先で対応して頂いた方々は皆、CSAに対して継続した支援を希望されており、受ける側としてはまだまだ支援が必要であるとの思いが伝わってきた。その上で長い間、継続して支援をしている我々（CSA）に対する感謝の気持ちが親日的な態度として根付いているのだと思う。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

　現地での国内線の遅延や訪問先での対応等、やむを得ず予定を変更せざるをえない状況ではあったが、もう１校でも小学校を訪問出来れば、尚良かった。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

　CSAが行う活動は、いずれも将来を担う子供たちや生活の困難な方々を対象とした支援であることを知り、早急な対応と継続性が重要であると感じました。日本も震災にあたってはラオス・タイから援助をして頂いていることから、相互に助け合わなければならないこと、そして出来る限り支援を継続していく必要があると思いました。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

　現地の小学校を視察し、教科書が行き渡っていないことから、教科書配布の支援もしてあげたい。また、薄暗い教室で授業を受けていることや、校舎の老朽も見られることから環境を良くする活動をして頂きたい。また、ラオスではゴミが放置される傾向がみられたことから、日本からの参加者が積極的に運動場のゴミ拾い等を行えば、なぜ、公共のものを大切にしなければいけないかが子供達にもよく理解してもらえるのではないかと思いました。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

今回、ツアー参加の内容を単組や連合会へ報告を行なったので、少なくとも組合役員への認知がされたと思います。また、今後も活動を継続するにあたり、なるべく多くの労働組合からの参加と救援衣類の提供がされるよう、活動の周知を連合や各産別へ広く活紹介してもらう取り組みが必要と思いました。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

なるべく多くの学校を点検し、必要な支援や対応を判断するためにも、同様の視察は継続すべきと思います。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

さまざまな業種の労働組合の方々との１週間もの交流は、参加者の知識を豊かにし、なにより、末永く頼れる仲間が出来るといった面で大変得たものが大きいと思います。事務局、および参加者のみなさん、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

訪問先毎に役割を設定する運営は、責任感を持って視察にあたることが出来、非常に良かったと思いますし、最後までいい意味での緊張感が保てたことから、今後も継続して頂きたいと思います。

参加した後で言うのもなんですが、卒寮生達との交流では、勉強不足により、挨拶さえ満足に出来ずに彼らをがっかりさせてしまったのではないかとの反省から、今後は参加者に２～３個の質問を考えて英語の予習をしての参加を検討して頂ければと思います。

西　巻　孝　之（JAM･組織･調査グループ）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

- 子供との交流、卒寮生の進学状況、日本留学
- ラオスの国情を見聞、そして現地の人と意見交換できたこと。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

- 空爆による被害。現在でも多くの不発弾が残っていること。これにより国・地域の発展が足かせになっていること。
- 我々が当たり前のように思っていることが当たり前でないことを知る重要な機会となりました。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

支援に対し、感謝の意を感じられた。まだまだ要請事項も多く、頼られていると感じた。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

- 訪問先では、支援に関わる機関がすべて見られたのでよかったと思う。
- 訪問先が多い。よって日程がタイトとなっている。（小学校の訪問数を減らしてもよいのではないかと思う。）日程が長く参加が難しいと組織内から声がある。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- 労働組合として共済活動は当然の活動。困っている人々に対し、支援することは大事な活動だと思う。また海外の国々との交流は大事だと思う。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- 引き続き、現在の活動を継続させるべき。
- 今回の視察で小学校訪問、児童と交流したが、自分の子供にも見せたいし、ラオスの子供と交流させたい。
- 支援した小学校に通う子供の家庭の様子をもっと知りたい（見たい）。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- 活動内容がもっと多くの人々に伝わるようCSA、連合、産別の各組織で自発的な工夫が必要。そういった意味でも１回の日程も多くの人が参加しやすいよう短縮することも必要ではないかと思う。
- 現地で一緒に行える作業を取り入れることなども工夫できるのではないか。
- CSAの活動に理解・協力するが、組織内では雇用・合理化、組合員の減少等厳しい状況が続き、平和、社会貢献活動に対し協同型までには理解ができるが対応までにはいかない状況。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

- ラオスでは、学校建設支援が必要。
- 学校建設・寄贈して終わりではなく、その後のフォローも重要。よって継続する必要がある。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

他組織と同じ課題で共有でき、親交がはかれたこと。
CSAの取り組みに対し、自組織との違いが見られたこと。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

- 役割分担他、全体的によかったと思う。
- 訪問先ごとに報告される内容がまちまち。最低限の報告内容も現地と打ち合わせしておくとよいのではないか。事前に通訳に伝えておくことも重要だと思う。（村の人口、生徒数、他、）また事前に参加者で質問内容の打ち合わせも考えてもよいのではないか。
- 当日、誰と合うのか説明があるとよい。全員と名刺交換は難しい。（今回のように訪問後に配布された日程確定版に各訪問先の対応者の名前が入っていてもよい。）

田　倉　正　司（印刷情報メディア産業労働組合連合会）

1．参加して感じたことは何ですか

1）良かったこと

同じ連合の仲間であり、労働組合に携わる方々と１週間過ごす事が出来、非常に実りのあるツアーであった。特に、微力ながらも救援衣類の集約や愛のカンパにより、世界の貧しい方々への支援をし、労働組合として何らかの役に立てていることが実感できた。

2）訪問先で特に強く印象を受けたことは何ですか。

３か所の小学校を訪問したが、貧しいながらも真っ直ぐに一生懸命勉強し、お互いが切磋琢磨して成長しようとしている姿が印象的であった。子どもたちの目を見ていると澄んでいて心が洗われる思いもした。また、高校の寮生たちも素直で一生懸命歓迎して頂いている姿が印象的であった。日本に対する感謝の気持ちを多く感じる事が出来た。

3）現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

全ての訪問箇所で連合およびCSAに対する感謝の気持ちを感じ取れ、救援衣類や愛のカンパに対する評価は絶大なものであることを感じた。労働組合として微力ながらも世界の貧しい方々の役に立てていることを感じた。

4）今回のスケジュールや訪問先はいかがですか。

スケジュールはタイトであったものの、全ての訪問先において歓迎されていることを直に感じた。

2．今後のCSAの活動についてご意見を聞かせて下さい

1）スタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

一人ひとりの組合員の力は小さいものの、CSAによる救援衣類の集約により大きな力となり、世界の貧しい人たちへの支援ができる事を誇りに思います。

2）CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

今のままで充分であると思いますが、不発弾処理や不発弾による被害者に対する支援が出来ればよいかと思います。

3）参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

訪問や確認だけではなく、現地に行って実際に衣類を届けたり学校建設の手伝いをするなど、難しいとは思いますが手を携える活動も良いかと思います。

3．今回のチームの感想と今後のあり方について

1）これからも続けた方がいいですか。

産別として初めて参加しましたが、貴重な体験が出来たため次年度からも引き続き参加への検討をしたいと思います。従って、引き続き継続した取り組みを願いたい。

2）組織を超えて交流し、得るところがありましたか

参加にあたっての一つの目的でもあった他産別とのネットワークつくりが達成できたと感じる。

3）チームの運営の仕方はいかがですか

全ての参加者に対して任務分担ができ、何らかの役割を与えたことにより責任と自覚が出来たと思います。

サンティパープCSA高校生寮の前で